関西自然保護機構会報 20（1）：45－46，1998

近畿地方から絶滅した植物　4 [1)]

村　田　　源 [2)]

EXTINCT PLANTS FROM KINKI DISTRICT, JAPAN. 4

Gen MURATA

ヒメノカンゾウ Hemerocallis fulva L. var. pauciflora M. Hotta et M. Matsuoka（図5）

ノカンゾウに似て全体細くて小形の湿地生多年草である。京都府船井郡胡麻ヶ原で筆者が1961年8月5日に採集した標本（Murata No.14276）をタイプとして，松岡通夫・堀田満によって植物分類地理22巻1－2号43頁に発表された（松岡・堀田，1966）。蒲生野（現船井郡丹波町）から胡麻ヶ原（日吉町）付近は標高わずか200ｍ内外の平旦な地形であるが，由良川に入って日本海に流れる川と，桂川に入って太平洋側に流れる川との分水界に当っている。現在は水田や宅地その他に開発されているが，昔は湿地が点在し，1961（昭和36）年頃には水田の畦道や用水路にそってまだかなりの個体が野生していた。荒木英一（1939）によると「胡麻ヶ原は海抜190ｍ余の何となく高原めいた所であるが某所を横断している山陰線を7月下旬頃汽車で通ると車窓に展開する本種の一大群落の美観を楽しむことが出来る」とある。この植物はかつて福知山市の長田野にもあってムサシノワスレグサと考えられたこともある（荒木，1939）が，そうとも考えにくい。染色体数は2ｎ＝33が報告されている（松岡・堀田，1966）。葉は巾5㎜内外で細く，花茎は25～50㎝になり，花序は2分岐して2～3個の花をつけることもあるが，写真のように1花だけをつける株が多かった。花は昼咲きで橙黄色，わずかに内花被の内面に紅色を帯びるがノカンゾウのようには濃色になることはなかった。長田野はかつて陸軍の演習地となっていた所で，所々に湿地もありサギソウなども生

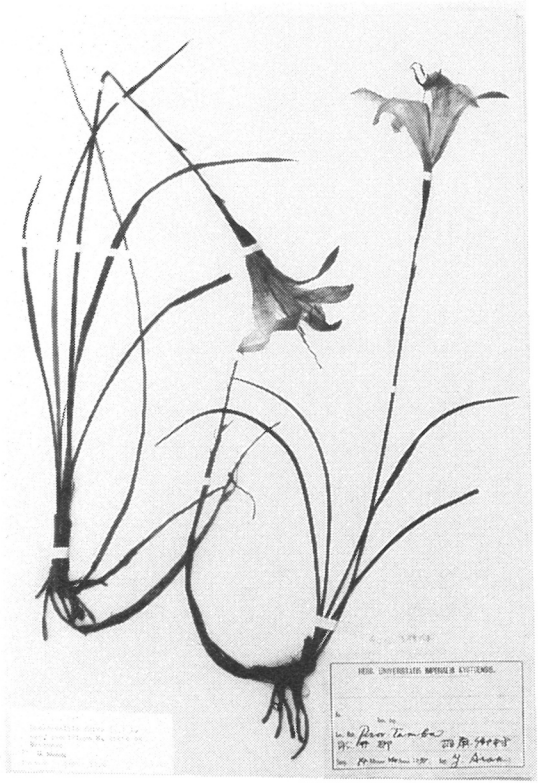


図5　ヒメノカンゾウ　*Hemerocallis fulva* L. var. *pauciflora* M. Hotta.
京都府船井郡胡麻ヶ原．1934年8月14日，荒木英一採集の標本．京都大学理学部（KYO）にて村田撮影．

1）関西自然保護機構業績　第207号

2）〒615-8282　京都市西京区松尾大利町20－55

えていたが，現在は工業団地として開発されて昔の面影は全くなくなった。

この植物はタンバヤブレガサが遺存していたことでも知られている京都府の胡麻ヶ原と長田野にだけ知られていたが，現在その両地共に姿を消してしまったことは，地球上から絶滅したことになる。

引用文献

荒木英一．1939．三丹植物調査余談（一），野外博物1（1）：14-20.

松岡通夫・堀田満．1966．日本および近接地域のキスゲ属の分類，植物分類地理22（1−2）：25−43.